学校番号	T0106

平成 31 年度　商業科

教科	簿　記	科目	簿　記	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	「 新簿記　新訂版 」　（ 実教出版 ）						
副教材等	「反復式 学習と検定 簿記問題集全商3級」「全商 珠算・電卓実務検定演習 2・3級」　（ 実教出版 ）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

簿記とは何かその意味・目的を明らかにして，記帳の重要性を理解しましょう。
簿記の学習を通じて、将来自分が就く、職場の経営状態を分析出来るだけの知識や技能を身につけられるよう一緒に頑張りましょう。

2　学習の到達目標

- 取引の仕訳，勘定記入，決算など簿記に関する知識と技術を習得させ，簿記の基本的なしくみについて理解させる。
- 適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。
- 各自の能力に合わせた 簿記検定試験に挑戦し資格を取得すること。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	個人企業における簿記に関心をもち，その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに，企業において日常発生する取引について適正な会計処理を行う実践的な態度を身につけている。	いろいろな処理法や記帳法について，なぜ，そのように行うのか自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。 また，適正な会計処理を行う能力を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ，いろいろな場面において適正な会計処理を行う。 帳簿からの転記や試算表へのまとめ方などに処理速度および正確さが伴っている。	個人企業における簿記に関する基礎的･基本的な知識を身につけ,簿記の基本的なしくみについて理解している。
評価方法	演習問題への取組み 資格取得への意欲 授業での発言	定期試験 仕訳の論理的説明力	定期試験 演習への取組み方 （解答の速さと正確さ）	定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
(前期) 4月	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎 第2章 資産･負債･純資産と貸借対照表 第3章 収益･費用と損益計算書 第4章 取引と勘定	○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ 	○ ○	a: 資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および P/L・B/S の作成，簿記一巡の手続きに関心がある。 b: 貸借平均の原理が理解できる。 c: P/L・B/S の作成に関する基本的な技術を身につけている。 d: 簿記一巡の手続きの理解ができる。	問題集 ワークシート
5月	第1編 簿記の基礎 第2編 取引の記帳	第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 (第2編) 第10章 現金･預金などの取引 第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ 	a: 勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。 b: 仕訳の意味を明らかにし，各種の取引の仕訳に習熟させる。貸借平均の原理が理解できる。 c: 取引により，資産・負債・資本が増減することを理解させる。 d: 簿記一巡の手続きの理解ができる。	問題集 ワークシート
6月	第2編 取引の記帳	第13章 手形の取引 第14章 有価証券の取引 第15章 その他の債権･債務の取引	○ ○ ○	○ ○ ○			a: 勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。 b: 仕訳の意味を明らかにし，各種の取引の仕訳に習熟させる。貸借平均の原理が理解できる。 c: 取引により，資産・負債・資本が増減することを理解させる。 d: 簿記一巡の手続きの理解ができる。	定期試験 問題集 ワークシート
7月	第1編 簿記の基礎	(復習) 第2章 資産･負債･純資産と貸借対照表 第3章 収益･費用と損益計算書 第7章 試算表		 ○ ○ ○	 ○ ○ 		a: 資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および P/L・B/S の作成，簿記一巡の手続きに関心がある。 b: 貸借平均の原理が理解できる。 c: 収益・費用の意味を明らかにし，純損益を計算する方法（損益法）を理解し、損益計算書の意味・形式などを明らかにし，その作り方に習熟し等式が理解できる。 d: 簿記一巡の手続きの理解ができる。	問題集 ワークシート
9月	第2編 取引の記帳	第16章 固定資産の取引 第17章 個人企業の資本の取引 (復習) 第11章 商品売買の取引	○ ○		 ○	○ ○	a: 固定資産の意味と種類に関心がある。 b: 所得税と住民税の納付は資本の引き出しになることが理解できる。 c: 引出金勘定を用いた場合の記帳方法が理解できる。 d: 分記法と 3 分法による商品売買の記帳方法の違いが理解できる。	定期試験 問題集 ワークシート

(後期) 10. 月	第2編　取引の記帳 第3編　決算(その1)	(復習) 第11章 商品売買の取引 (第3編) 第19章 決算整理(その1)	 ○	○ 	 ○		a: 決算整理の意味とその必要性を理解させる。 b: 商品有高帳について，先入先出法と移動平均法の違いが理解できる。 c: 決算整理仕訳の処理ができる。 d: 3 分法による商品売買に関する勘定の整理，貸し倒れの見積もり，減価償却の処理法が理解できる。	問題集 ワークシート
11. 月	第3編　決算(その1)	第20章 8桁精算表 第21章 帳簿決算	 ○	○ 	○ 	 ○	a: 決算整理の意味とその必要性を理解できる。 b: 売上原価を計算し，商品売買損益を計算する方法について明らかにできる。 c: 決算整理仕訳から、8 桁精算表が作ることができる。 d: 決算整理を含む決算手続き全体の流れを，帳簿記入を通じて学習し，損益計算書と貸借対照表が作れる。	問題集 ワークシート
12. 月	第4編　会計帳簿と帳簿組織 第5編　決算(その2)	第23章 伝票 (第5編) 第24章 決算整理(その2) 第25章 財務諸表の作成	 ○ ○	○ 	○ 	 ○ ○	a: 減価償却法，有価証券の評価替えなどをする理由に関心がある。 b: 3 伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解できる。 c: 3伝票を用いた仕訳ができる。 d: 決算整理を含む決算手続き全体の流れを，帳簿記入を通じて学習し，損益計算書と貸借対照表が作れる。	定期試験 問題集
1 月	検定対策	日商簿記(初級･3 級) もしくは 全経簿記(3 級)の過去問題を解く	○	○	○	○	a：検定出題内容に関心がある。 b: 各種の等式を理解できる。 c:制限時間内に解き切れるか。 d：会社法について理解ができる。	問題集 ワークシート
2 月 3 月	検定対策	1 年間の学習内容の総復習 日商簿記(初級･3 級) もしくは 全経簿記(3 級)の過去問題を解く	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a：個人企業の会計経理処理に関心がある。 b:各種の等式を理解できる。 c:制限時間内に解くことができる。 d：定期試験および検定問題を解くにあたり、1 年間学習した内容を使いこなせている。	定期試験 問題集 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。